

プール、海などでの事故防止！

～安全に楽しむために、水の事故を防ぎましょう～



夏は、海・川・プールでのレジャーを楽しむ機会が増える季節です。

毎年この時期には「水の事故」が発生し尊い命が失われています。

海水浴や川遊び、プールでの「水の事故」の注意点を紹介します。



水の事故は約半数が死亡事故!!

令和2年夏季（7月～8月）における水の事故は全国で504件、616人、このうち死者・行方不明者は262人にのぼっています。

いったん事故が起きると、命にかかわる重大事故になる可能性が非常に高いのが、「水の事故」の特徴です。

（参考 警察庁「令和2年夏季における水難の概況」）

水の事故を防止するために

1. 危険な場所を確認し、近づかない

・海水浴場では岸に近い場所でも沖に流れるとても速い潮の流れ（離岸流）が起きる場所があります。遊泳禁止区域には入らないようにしましょう。

・川では危険を示す掲示板が設置されている場所があります。そういった場所には近づかないようにしましょう。また、河原や中洲、川幅の狭いところは短時間で増水、水没する危険な場所があります。



・上流にダムがある場所では天候に関係なく水の放流により急激に水位が上昇する場合があります。

・水の流れがとても速く、服を着たままの場合が多いため、思うように動けなくなり、泳ぎが得意だからといって過信しないことも大切です。

・水辺には子供だけでは近づかせないようにして、大人は子供から目を離さないようにしましょう。

2. 天候の変化に注意

・海が荒れている、荒れそうなときは入らないようにしましょう。

・河川の中には、場所によって急な増水により水没する場所があります。上流も含めた天候の変化に注意しましょう。また、以下の変化は河川が増水するサインです。すぐに避難してください。

- ①上流の空に黒い雲が見えたとき。
- ②雷が聞こえたとき。
- ③雨が降り始めたとき。
- ④落ち葉や流木、ゴミが流れてきたとき。



3. プールでの事故を防ぐために！！

遊泳前の注意

- ・指導者や監視員の指示に従う。
- ・体調が悪いときはむりして入らない。
- ・必ず準備運動を行う。
- ・水に慣れてから泳ぐ。(シャワーなどを利用し、急に水に入ることは避ける)
- ・食後すぐに泳がない。
- ・飲酒後は泳がない、泳がせない。
- ・自分で泳ぐ力を知り、無理はしない、させない。
- ・むやみに飛び込まない。

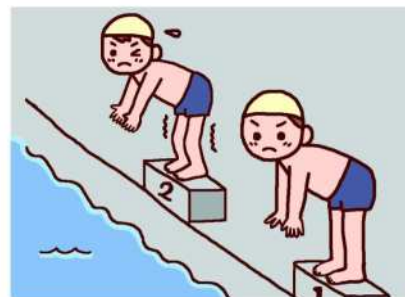


休憩の目安

- ・児童 20分泳いだら 10～20分
- ・成人 30分泳いだら 10～15分

危険箇所

- ・階段の近くや飛び込み台の下付近。
- ・足がつくところ、つかないところの境付近。
- ・排水口付近。
- ・プールサイドから2m付近。



溺れている人を発見したら

- ・落ち着いて自分の安全を第一に
- ・周囲に助けを求め、119番通報
- ・ロープや浮き輪、着衣などを使って水の外から救助
- ・泳いで救助は抱きつかれて自分も溺れることがあります
- ・助けた人が呼びかけても反応がない、普段通りの呼吸をしていない場合は直ちに心肺蘇生を実施する

